

<様式1>

令和3年度 さいたま市立仲本小学校 自己評価書

校長 宇佐見 弘幸 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 確かな学力の育成（3つのG<Grit, Global, Glowth>の視点からの授業改善、ICT環境を基盤とした、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業の実施）
→教育課程の編成・実施状況、各教科等（G・S、『潤いの時間』を含む）の授業の状況、児童生徒の状況
- (2) コミュニケーション力の向上（心のサポート、積極的ないじめ撲滅体制の確立）
→いじめ防止等の状況、生徒指導の状況、教育相談の状況
- (3) 安全で落ち着いた教育環境の整備（危機管理体制の徹底、安全な登下校指導と生活指導の徹底）
→安全管理の状況、安全教育の状況
- (4) スクール・コミュニティによる連携・協働（教育内容の積極的公開・情報発信、学校評価の充実、地域社会の教育力の活用）
→学校に対する情報公開の状況、学校と保護者、地域住民との連携の状況
- (5) 業務改善によるワーク・ライフ・バランスの充実（児童と向き合う時間の確保）
→働き方改革を視点とした業務改善

2 評価結果について

【成果】

- (1) 児童アンケート「わからない時は、先生に質問しますか」が前年度から改善され、肯定的回答が8割に達した。学力調査（国・市）の分析を含め、学校課題研修を通して、ICT環境を基盤とし、「個」で考える時間を確保した上で、自分の考えを表現することを重視している成果と考える。
- (2) いじめの対応では認知した事案のすべてを解消に向けて取り組んでいるが、児童アンケートでも「いじめられたことは、解決しましたか」について肯定的回答がおよそ1割増加した。児童教育相談週間の設定、関係職員が話し合う定期的な部会の設定など、組織として積極的に児童の悩みを吸い上げ、その解消に取り組んでいる成果と考える。
- (3) 保護者等アンケートより安全指導について肯定的回答が9割を超えている。安全点検や安全指導についての成果が出ていると考えられる。
- (4) 保護者等アンケートより「家庭への連絡」は今年度も肯定的回答が9割近い。「教育活動の公開」も同様であるが、前年度から肯定的回答が微増である。コロナ禍の中で、感染症防止対策を徹底しながら、可能な範囲での情報公開・連絡が出来ていると考える。

【課題】

- (1) 保護者等アンケートでは、「いじめ対応」について、肯定的回答が7割にとどまり、今年度から設けた「分からない」とする回答が3割近くに上った。同様に「特色ある教育活動」の項目でも、「分からない」とする回答が2割近い。学校での積極的な取組を、保護者、地域に伝えきれていないと考える。
- (2) 「あいさつ」について、児童、保護者等、教職員いずれにおいても、肯定的回答の伸びはみられるものの、他の項目と比べると肯定的回答が低い。課題があるととらえ、さらなる取組が必要と考える。
- (3) 「業務改善」について、教職員は計画的に業務改善を行っているが、ほとんどの教職員が課題と考えている。児童とより向き合う時間の確保のためにも、学校全体での業務改善が必要であると考える。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ウィズ・ポストコロナ時代を見据えて、今後も感染状況等に合わせて、学校Webページを活用するなどして、学校の取組を保護者、地域に積極的に情報発信を行っていく。
- 学校運営協議会の機能を生かして、準備委員会で策定した、児童に付けたい力「コミュニケーション力」「自分で考えて行動できる力」の育成を目指して、学校、家庭、地域での連携した取組として「あいさつ」運動を模索する。
- 学校全体での業務改善策を、担任等から意見を吸い上げ、運営委員会を中心に検討し、学校全体で決定して取り組んでいく。